

児童の「書く活動」と、 文学テキストを「読むこと」の授業のつながり

1.はじめに

「書く活動」の特徴

どの「書く活動」も、児童自身が変容や成長を記録したり価値付けたりすることができるという特徴をもっているため、**授業者も児童も【内容面】に着目して取り組んでいる。**

「書く活動」の実際

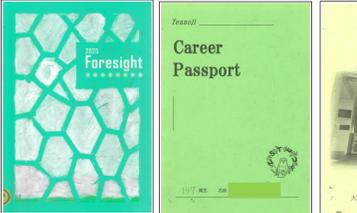
何を書こうかな？
何か特別なことって、あったかな？

児童（書き手）は**内容やテーマの選定**に頭を捻っている。



児童（書き手）が**形式上の工夫**に頭を捻っている。

どう書こうかな？
どんな語り方の工夫が、あったかな？



これらを文学的なものとして捉える

書き手として読み(書き)物と関わる姿(めざす像)とその効果

児童が形式上の工夫とその効果に着目して読んだり書いたりするとともに、友達と意見を交わしながら、文学と関わる姿。また、文学的に身の回りを見て、表現を工夫しながら語る姿。

- ①「何を書くか」ではなく、「どう書くか」に重点を置き、自分の体験を演出することで、形式を工夫することの面白さを感じたり、自分の体験に新たな価値を見出したりする。
- ② 文学作品を「読むこと」の学習で扱う際に、児童が形式上の工夫に着目したり、その美醜や効果について内容とあわせて友達と意見を交わしたりしながら、読みを深める。

附属天王寺小学校が取り組んでいる次の3つの「書く活動」を例に挙げる。

名称

Foresight

内容

その日にあった出来事や自分が思ったり考えたりしたことを振り返って書く日記のようなもの。

頻度

毎日

目的

取り組んだことや気持ちを書き残しておくことで、今までの自分のがんばりが分かり、自信に繋げることができるようにする。

Career Passport

学校行事後に書くことが多い。行事やそこに至るまでの過程、その中で思ったり考えたりしたことを振り返り、言葉にする。

行事後 / 年度の初めと終わり

正しく書いたり、文章構成や言語表現を工夫したりすることで、行事やそこに至るまでの過程(自分のがんばり)を意味づけることができるようにする。

はばたき

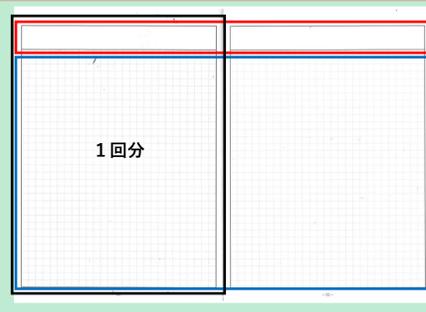
1年間(これまでの学校生活)を振り返って、心に残っていることや変容などを書く文集。

毎年(11~12月頃)

粘り強く書いたり、過去の作品と読み比べたりする中で、書く力の伸びや達成感を味わうことができるようにする。

- ① 原稿用紙2枚に書く。
※ 中高学年はChromebookも用いる。
・ 1・2年(16字×22行) 2段
・ 3~6年(20字×25行) 2段
- ② 校正を行う。(誤字脱字等)
- ③ 1ページあたり、1~3人の作品が文集に掲載される。

枠組



社会的な背景

児童もインターネットサービスへのアクセスが容易になっている現在は、SNSの進歩によって、誰もが発信者(書き手)となることができる。その結果、無数の創作物(発信物)が身の回り(インターネット上)に溢れている。他のものと違いを出したり、目を引いたりするために、善し悪しはあれど、内容面だけでなく、語り方(見せ方)を工夫したものが見られる。それを鵜呑みにしてしまう読み手(受け手)がいる。

児童の様子から

〈A児のある日のForesight〉「フォーサイトの本音」
毎日朝何をかけばいいの〜?今もその気持ち。かくことはあるけど言葉や字にしかかかれない。時間わりしかたよれない。でも時間わりを見てもかけない時がある。これがフォーサイトの本音だ。
(原文ママ)

〈B児のある日のForesight〉「本音を書きます。」
書くことがないです。1番ないときは、きめつたことを書きました。学校のこと書けてないです。ほぼ女子vs男子(ドッジボール)のことしか書いてません。そう。今も書くことがないでサボってるのと同じです。朝書けなかったらたいへんなことになります。
(原文ママ)

〈C児の初発の感想(国語科)〉
それに、ごんの表現を、火縄じゅうから出てくる細く青いけむりで表しているところが参考になりました。
(「ごんぎつね」の初発の感想から一部抜粋)

2.書き方の経過 (B児を例に)

「かがやき」(2026.04.09.)
4年生初めての国語のじゅ業。楽しかった。わたしはふと思った。(金子先生、1年生のたんにんの先生の時も国語のじゅ業してくれたな)朝?昼?夕方?夜?みんなで話し合った。急に全部が分かったように、はっと分かった。私の意見は夕方。私は、あした、早く先生言いたくてはしゃいでいる。お楽しみに!

「先生のコメント」(2026.04.22.)
わたしは、思う。手もとはフォーサイト。(先生のサインとかコメントってすごいな)わたしは、思う。先生のさい点って、まほうだな!いつも見ると「次がんばろう!」「ぜったい全部かく」みたいに、がんばりたくなるんだよ!今日かいたフォーサイトは、どんなコメントかな?

「ねえ、今何してるの?」(2026.05.12.)
みんな今、何してるのかな?私はぼんやり思う。カーテンのすきまから日が差すベッドで...。頭もいたい体もいたい。だけど、私は、みんなが今何してるのかが、気になる。午後、病院に行った。そこでも私は、何してるのかが気になる。なにか体全体で「ねえ、今何してるの?」と言っているような感じ。なぜだろう。休むとせたいこうゆう気持ちがわいてくる。

「(無題)」(2026.01.27.)
2026年1月27日の学校の帰り道、「(B児氏名)」という名の小学4年生が気づいた。「けいたい、学校にわすれた!」とゆうことに。かの女は、どうやらもうバスに乗っていたらしい。さっきまでは味方をしてくれた追い風は、とりにかえらうと思うと向かい風になり、私をひいた。

題名や書き出しの工夫がクラスで流行る中、B児は裏を返して結び方に着目していた。それをクラスで紹介した。=結び方へのアンテナが高まっている状態で、「読むこと」(国語科)の学習に取り組んだ。

「ごんぎつね」を教材に物語の結び方について検討した際の振り返り
【「ごんぎつね」の結びとして「青いけむりが、まだつづ口から細く出ていました。」の一文は、ふさわしいか。】まず、桃太郎のお話を例にすると、「桃太郎はお城の金や銀や織物や、荷車一杯の宝物を手に入れました。こうして、桃太郎はおじいさんとおばあさんの待つ家に帰り、みんなで幸せにくらしました。」ではない!おしまい!ちゃんちゃん!!でお話がピシッと決まっちゃうんですね。ですが、この「ごんぎつね」のお話の最後の文、「青い煙が、まだ筒口から細く出ていました。」が読む人によって感じ方・思い方がちがうのです。この文章が色んな意味を持っているから。だからその人が考えれば考えるほど「ほわ〜ん」と終わっていく。「細く出ていました。」で終わっているけど、その後「ごんは、静かに息を引き取りました。その後村は、煙も荒らされず、菜種に火も付けられず、とんがらしもむしり取られることもなくなりました。」だとピシッと終わっています。

「1/2成人式」という自身の感動体験をForesightで表現するために、感動の対象にあった結び方を考えている。

(D児)と(E児)のスピーチは、本番にグサッ!と、きました。ありがとうございます。2人でめっちゃ泣きました。(←日記の前にあわせて書かれていた文章)
「(無題)」(2026.03.02.)
(D児)のスピーチ。
弟が生まれ、妹も生まれ、自分に前よりもきびしくなり、おこられるようになった。家族がきらいになった。でも、3年生の時、自分のためにお母さんがおこっていることにやっと気づき、自分が悪かったということに気づいた。そうゆうスピーチだった。私は泣いた。となりを見ると(E児)も泣いていた。わたしは(E児)のせなかをさすった。

3.課題

「スワンレイクのほとり」で教材として国語科の授業で扱った際は額縁構造を用いてCareerPassportを書く児童が数名見られた。また、詩を授業で扱った際には、Foresightを詩で記している児童が見られた。いずれも形式上の工夫に着目し、自分の体験を書き表そうとする行為であり、児童も自ら「今日、書いたものはやく見てほしい。」と、言ってくるほどだった。
一過性のブームにはなるが定着はなかなか見られなかった。それは、授業者(担任)が形式上の工夫の効果について「使える知」として指導できていなかったことがある。また、「書く活動」と「読むこと」が、どれだけの児童の中で結び付いているのか、どれくらい連動しているか、見取ることは困難であった。
翌朝のForesightのお題を決めた上で1日を過ごすことができるようにしたり、使えるような表現の工夫を整理してからCareerPassportやはばたきを書く活動が考えられる。